
きみを想うよ

遊崎

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

きみを想うよ

【コード】

N3914L

【作者名】

遊崎

【あらすじ】

血迷って打った恋愛の詩を投稿したいと思います。

サイレント・ヴォイス

沁み入る文字

眩しい画面に、その綴りは機械的で。

感情を汲み取るのは難しいけれど、一つ一つが愛おしい

声にならない叫びや ささやきが 聞こえない音でわたしの心に
響き渡る

心、わたしの心

くだらないって決めつけて

冷めた目で見下ろして 見下して

免疫のないウイルスの浸入を容易く許してしまったのです
そして病に犯されたわたしの心は

踊らされ 狂わされ

いつしか薬のように、その侵入者に依存していたのです

ぶつりとそれを絶たれ

わたしはそれがひとの心だったことに気がつきました

気がつくのが遅すぎたのです

わたしが気づいていねばわたしはこんなにも傷つくことは無かった
のです

そしてわたしは。

愚かにも、またひとを求めました

ひとに愛されました
ひとを傷つけました

ひとを、愛しました。

サイレント・ヴォイス

近くて遠いわたしたちには、心地好いぬくもりだったり。

声、

耳に沁み込み 浸食し 響き渡る

満たされて 消えていって わすれるけど忘れられなくて

十人十色よりは 十人九色だけれど

優しさを含んだその響きに わたしはうっとりこの身をゆだねます

耳元でささやかれるような 遠くで呼んでいるような
低く、高く 太く、細く

聞いているだけで楽しくなって
聞いているだけで悲しくなって

声、【voice】

今日も誰かがわたしを呼びます
わたしはその声が好きです

そしてわたしはあなたのその声が好きなのです

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3914/>

きみを想うよ

2010年10月13日17時58分発行